

# 令和3年度 特別養護老人ホーム大仙園事業報告（案）

## I 概要

全国的に発生している新型コロナウイルス感染症については、昨年同様感染拡大防止への留意点を基本に対応し、施設内への持ち込みを防止する観点から短期入所生活介護（ショートステイ）の利用は緊急時利用のみとした。

感染状況により面会を緩和したり、自粛したりとご家族へも注意喚起を促し協力していただいた。

職員も健康管理を行うよう個々が十分な注意を払い、その結果新型コロナ感染症の発生は回避できた。

しかし、今回ユニット型にノロウイルスと思われる感染症が発生し一時ユニット型の隔離対応を行った。

幸いにも利用者の症状は軽度であり重症化することなく終息したが、人員不足の問題を抱えながら、拍車をかけるかのように業務量は倍増し時間外労働も余儀なくされた。未だ感染経路が不明のままである感染症の蔓延に改めて感染の怖さを痛感した。

介護業務は直接的なサービス提供に加え、各種記録や保険請求などの事業運営に必要な事務作業も並行している。

人員不足という問題を補うためには人材を確保することが最短であるが、人材確保に苦慮している現状では、解決手段として業務負担軽減に繋がる ICT（情報通信技術）等を取り入れることが必須であると考え、「サービス等生産性向上 IT 支援事業（経済産業省）」の補助金の活用による ICT の導入を実施した。

これにより、介護記録や利用者情報管理、請求業務が容易となり介護業務、事務業務の効率化、省力化に繋がっている。

よって、次年度はこの ICT（情報通信技術）を更に使熟し、精度を高め利用者に寄り添ったケア、満足度の向上と多職種連携の強化を図るよう取り組む。

### <施設理念>

特別養護老人ホーム大仙園は「笑顔のありがとうをいただける笑顔のあたりまえ」を基本理念とし、利用者とそのご家族の皆様から笑顔をいただけるよう「思いやりのこころ」で支援いたします。

### <基本方針>

1. 利用者のニーズの充足に応え生活の質の向上を目指す。
2. 人材育成に取り組み、職員の知識、技術の向上及び業務の改善に努める。
3. 地域との連携を強化し、利用者はもとより地域における福祉の充実に貢献する。

### <重点目標>

1. 入所者のサービス向上
  - ・施設理念に基づき、利用者が自分らしく生きることを支援する。
  - ・介護を中心に多職種が連携し、利用者が安全で安心して過ごせる生活を提供する。
  - ・利用者の個別性の理解を深めるとともに、個々に応じた目的のあるケアを実践する。
  - ・利用者の身体的・精神的状態を把握し、協力病院と連携し疾病予防に努める。
  - ・居室の整理整頓に努め、快適な生活を送っていただけるよう配慮する。
  - ・感染症予防対策の知識、技術の向上を図り感染症対策を実践する。

## 2. 人材育成

- ・各種委員会や研修会の積極的な参加を促し、専門性のある知識の習得や技術の向上に努める。
- ・自ら考えて行動する人材を育成する。
- ・中堅社員の育成と新たな組織体制の強化。
- ・統制のとれた組織運営を目指し、組織力とチーム力の向上を目指す。

## 3. 地域連携、医療連携

- ・地域の施設及び病院などとの連携を強化し、地域の期待に応えられる施設を目指す。
- ・地域のニーズに応える施設であるために、地域交流の拡大と地域福祉の充実に貢献する。

## II. 部門別事業計画と評価

### ◇ 介護サービス部門計画(従来型)

1. 「自分の仕事が何につながっているのか、どんな価値があるのか」という目的を明確に持ち、施設理念に沿ったケアを提供する。
2. 利用者に安心して生活して頂けるよう業務改善を行い、統一されたケアで支援を行う。
3. 多職種連携の支援を行い、利用者が安楽に過ごしていただけるようにする。

### 行動目標

1. 経験年数の長い職員と短い職員が共に業務に取り組むことができる環境を構築し、互いに学び成長できる機会を設ける。
2. 各職員が自ら考え行動することができるようにし、ボトムアップの組織作りをする。
3. 業務内容を明文化しマニュアルを作成する事で、統一したケアを提供できるようにする。
4. 他職種連携の中で介護職に求められる役割を理解し、当事者の方に寄り添い多角的な支援での物事の考え方・支援を行う。
5. 事故・ヒヤリハットカンファレンスでは他職種が連携し、早期に原因の追究・対策を行うようにする。  
利用者の現状に即した環境調整や支援を行うことで、安心・安全な生活ができるよう支援する。

評価→利用者が安心して生活できるよう、様々な意見があり業務改善を行うが、伝達が途切れたり、確認が不十分であったりなどの理由で、統一した支援に繋がらず、個々の考えで支援をしていたため職員間でのコミュニケーションを密にする必要がある。

次年度は職員間でのコミュニケーションを図ることを目標にし、利用者が安心して生活し続けることができるよう支援する。

今期の事故件数は1件であり、毎週ヒヤリハットカンファレンスを実行し、個々の危機意識を高めていることが事故防止に繋がっていると考える。

今回、ユニット型ではノロウイルス感染症が発生し対応策に追われていた。新型コロナウイルス感染だけではなく、ノロウイルスや細菌性感染症、皮膚科領域の感染症にも注意し感染症を発生させないよう予防策に努める。

#### ◇ 介護サービス部門計画(ユニット型)

1. 利用者にとってその人らしい日々の生活を送っていただけるように、本人の意向を尊重し個別ケアを実践していく。
2. 感染症を未然に防ぐ為に感染源の進入防止に重点を置くとともに、感染した際には感染拡大を防止する為の対策を実施していく。
3. 報告、連絡、相談を徹底し、いきいきとした働きやすい職場作りを行う為に、職員同士のコミュニケーションを重要視し、職員の質を向上していく。
4. 利用者の心身の状態に合わせ負担の掛からないような介護を行い、安全な環境作りを推進し事故予防に努める。

#### 行動目標

1. 終の棲家として最期の時まで安寧に過ごしてもらえるように、利用者に寄り添う支援を行なっていく。
2. 利用者が充実した日々を過ごしてもらえるように、外出支援を含め、個々に沿った企画を考え実行していく。
3. 感染症を蔓延させない為に普段から利用者の状態を観察し、異常がないかの確認をする。また、3ヵ月毎の委員会、年2回の研修会で学習を行い適切な処置の仕方を学んでいく。
4. ユニットケアの理念を職員全員が理解できるように年1回、研修会にて講習を行い知識向上に努めていく。また新任社員、経験の浅い職員に対して個別に指導していく。
5. 利用者に関わる情報を客観的に把握し、職員全員で共有を図り、一律に実践していく。  
また多職種との連携を強化し、それぞれの専門性を活かしよりよいケアに努める。
6. ヒヤリハット、事故報告書を活用し原因対策を早期に考え実行し、重大事故 0、骨折 0 を目指す。  
また危険予知トレーニングを定期的に行い、危機管理意識を養っていく。

評価→利用者にとって、その人らしい生活を送っていただけるように個別対応に努めているが、業務を優先してしまうところがある。利用者が日々充実した生活を 送れるように、傾聴、受容を行い「なじみの関係」を構築していけるように支援していく。  
また、統一したサービスを提供できるように定期的に実技研修を開催する。外国人技能実習生、新人職員には個人講習を行うことにより、職員のレベルアップを図り、サービスの質の向上を目指す。

今期は、ノロウイルス感染症が蔓延し、ユニット型利用者の半数近くが罹患した。

今回の事例を教訓として、感染症が流行しやすい時期には、経験の浅い職員に個別に指導を行うとともに、日頃から感染予防の基本対策を実践し未然に防止するよう努めていく。

そして、報告、連絡、相談によって、状況の把握、物事の早期解決ができるように努めているが、まだ不十分な点が見られる為、情報共有の徹底を図っていく。また他職種との連携を強化し情報伝達に漏れがないように周知していく。

安全配慮に関する評価では、骨折等の重大事故は見られなかったが未然に防止していく為、転倒リスクの高い利用者には、センサーマットの導入、巡回の強化等を行い、問題点を抽出し今後の対策を講じるようにして安全面に配慮する。また、誤薬防止にダブルチェックを徹底し職員が危機管理意識を持ち業務を遂行していくように周知する。

◇ 各種利用者状況

〈 入浴方法状況 〉

入浴方法	従来型	ユニット型	合計
一般浴利用者数	22名	24名	46名
機械浴利用者数	26名	18名	44名
合計	48名	42名	90名

〈 入浴介助状況 〉

介助方法	従来型	ユニット型	合計
自立	0名	0名	0名
一部介助	22名	24名	46名
全介助	26名	18名	44名
合計	48名	42名	90名

〈 排泄状況 〉

排泄状況	従来型	ユニット型	合計
布パンツ	0名	1名	1名
紙パンツ	29名	22名	51名
紙おむつ	19名	19名	38名
合計	48名	42名	90名

〈 排泄介助状況 〉

介助方法	従来型	ユニット型	合計
自立	2名	3名	5名
一部介助	25名	28名	53名
全介助	21名	11名	32名
合計	48名	42名	90名

〈 移動用福祉用具使用者数状況 〉

移動状況	従来型	ユニット型	合計
介助歩行	2名	1名	3名
歩行自助具	1名	5名	6名
車椅子	36名	30名	64名
リクライニング車椅子	9名	6名	15名

〈 福祉用寝具使用者数状況 〉

移動状況	従来型	ユニット型	合計
エアーマット	4名	5名	9名
自動体位交換機	6名	4名	10名
除圧マットレス	6名	9名	15名
コール付除圧マットレス	6名	4名	10名

〈 介護事故報告件数 〉

	従来型(件)	ユニット型(件)
転倒	0	4
転落	1	0
誤薬	0	4
感染症	0	18
合計	1	26

◇ 看護部門計画

1. 感染症の発生を予防し、利用者が安定した生活が維持できるよう健康管理に努める。
2. 介護職員が安心安全な医療的ケアが実践できるよう医療的ケアマネジメント能力の維持をサポートする。
3. 看取り介護において看取り同意から最期の時まで、多職種協働で利用者とその家族が良かったと思えるような関わりを持つ。

行動目標

1. 日々の利用者の生活状況(食事量・水分量・排泄状況・体重変化)を観察し、病態生理のアセスメントのもと委託医との連絡調整を行なうことで入院件数を20件以下に減らす。
2. 医療的ケア(痰吸引・経管栄養の管理・看取り介護)の研修会を行い医行為による事故を起こさない。
3. 新型コロナウイルス対策をはじめとし、各種感染症予防や発生時の対応を瞬時に言い感染拡大を防ぐ。
4. 利用者とその家族の意向を尊重し、説明や同意のもとに看取り支援を行う。

評価→今回ユニット型にノロウイルス感染症が発生した。

感染対応を行い蔓延を防ごうとしたが全ユニットに感染が拡大し約半数の利用者の方が罹患する結果となった。

委員会や研修会にて予防法の知識、技術の習得に努めていたが、いざ実践してみると基本的な予防を熟知しておらず不適切な対応が見られた。これにより感染を拡大させてしまったことが大きな反省点である。

看護師が中心となり、感染症対応のシミュレーションを行い感染拡大を起こさないよう努める。

入院者数に関しては、前年度と比較して半数であり、早期の受診を行う事で外来治療のみとなった。

「看取り介護」の取り組みでは、ご家族様に意向の確認をし、「看取り指針」の説明時に解りやすくイラスト入りの説明をし理解を得るようにしている。臨終に関わることが多い看護師は、ご家族様の信頼を得ることが重要であり今後も積極的に関わっていく。

〈 令和3年度看取り死亡者数 〉

年度	男	女	合計
看取り死亡者数	5名	16名	21名

〈 入院者の疾患別状況 〉 16名

平均入院日数 18.4日

疾患名	男	女	合計
心不全	0名	2名	2名
感染症	2名	1名	3名
脳血管疾患	0名	2名	2名
肺炎	1名	1名	2名
骨折	0名	3名	3名
胆道系(総胆管結石等)	0名	1名	1名
癌	0名	1名	1名
胃瘻造設	0名	1名	1名
その他	1名	0名	1名
合計	4名	12名	16名

〈 死因別死亡者数 〉

疾患名	男	女	合計
肺炎	2名	2名	4名
脳血管疾患	2名	3名	5名
認知症	0名	4名	4名
老衰	2名	6名	8名
その他	1名	1名	2名
合計	7名	16名	23名

〈 死亡場所及び死亡者数 〉

死亡場所	死亡者
施設	21名
病院	2名
合計	23名

〈 令和3年度口腔ケ往診者数 〉

対象者数
43名

〈 新型コロナウイルスワクチン接種者数 3回目 施設内接種者数 〉

従来型	ユニット型	職員	合計
43名 (3名未接種)	39名 (3名未接種)	51名	133名

〈 インフルエンザワクチン接種者数 〉

従来型	ユニット型	職員	合計
48名	42名	61名	151名

◇ 機能訓練部門計画

1. 生活リハビリを重視して、残された活動能力が維持できるようアプローチする。
2. 他部門との協働の基で、自立支援を目指した訓練内容を実践する。
3. 理学療法機器(マイクロ波・ウォーターマッサージ)を活用し、利用者の心身のリラックス効果を図る。

## 行動目標

1. 四肢の体操や口腔体操を取り入れた訓練を、介護職・看護職とともに協力して実施する。
2. 生活に対して常にできることの動機付けを行ない、利用者の好みを把握して意欲の奮起に努め、身体機能の維持向上を図る。
3. マイクロ波温熱療法・ウォーターマッサージを実践する。足心ローラー、滑車、イージーウォークも交え、負担にならないように進める。

評価→機能訓練に関して、マッサージやマイクロ波など介護職員の協力により行っている。

中でもウォーターマッサージはリラクゼーション効果があり積極的にされている。

個別の訓練内容を計画的に実践することができるよう、介護職員、介護支援専門員、看護師などと相談し利用者の残存機能の維持に努める。

## ＜ 訓練実施状況（令和4年3月31日現在） ＞

訓練種別	マイクロ波	滑車運動	マッサージ	歩行訓練	起立訓練	足心ローラー
実施者数	6	2	6	4	4	6

## ◇ 栄養サービス部門計画

1. 見た目にも楽しめる食事、旬の食材を使用し季節を感じていただける食事を提供する。
2. 食中毒を起こさない様、衛生管理の徹底を図る。
3. 介護や医療と連携し、低栄養状態を防げる様、体調や嗜好に合った食事の提供を目指す。

## 行動目標

1. 材料や献立の見直しを行い、マンネリ化しないよう工夫する。利用者に食べやすい食材の切り方・大きさ・調理方法で提供する。
2. 厨房の清掃状況・衛生状態を把握し、委託業者に注意喚起・指導を行う。配膳前に点検を行い、異物混入の有無・食事形態の確認を行う。異物混入の事故の年8回以下を目標とする。
3. 利用者の情報を集め、体調や嗜好に合わせて食事内容を検討し、栄養ケアマネジメントを活用して、栄養量・食事形態の見直しを行う。低栄養状態を防ぐ為、利用者の食事量や食事状況、体重等把握していく。

評価→今年度は、食器の破損が多く、経年劣化も含め数種類の食器を購入し、器も楽しみながら食べていただけた。食中毒警報の時期には弁当ではなくランチメニューの提供を行ったり、おやつは利用者様自身で選んでいただきコロナ禍での楽しみを感じていただく工夫を行った。

食事形態や栄養面での改善については職種間で相談し、適切な食事提供を行うよう取り組んだ。栄養マネジメントを実施し低栄養の予防、改善に努めるよう次年度も職員間での連携を行う。



### 〈 食事形態状況 〉

食事形態	従来型	ユニット型	合計
常食	18名	11名	29名
刻み食	23名	25名	48名
ミキサー食	5名	6名	11名
経管栄養	2名	0名	2名
合計	48名	42名	90名

#### ◇ 生活相談サービス部門計画

1. 利用者ならびにその家族への相談援助を通して、信頼していただけるよう相談技術向上に取り組み、利用者満足度の向上に努力する。
2. 入所および退所が円滑に行われるよう待機者リストの整備を行い、待機者 50 名の確保と月 1 回の入所会議を計画的に取り組む。
3. 地域に役立つ施設を目指し相談窓口および介護相談等で頼っていただけるように取り組む。
4. 在宅生活をされておられる要介護者及びご家族の支援のために、居宅介護支援事業所及び医療機関との連携強化に取り組む。

#### 行動目標

1. 利用者の家族への連絡および面談時の対応を通じて、施設サービスへの理解・満足度向上を図る。
2. 待機者増加の為、幅広いエリア・対象への働きかけを行う。特に在宅医療推進を踏まえ医療機関との連携を密に行う。
3. 円滑な連携のもと、ショートステイ稼働率 50%以上を維持する。
4. 地域関係組織との連携に努め、地域住民に大仙園の存在と信頼を浸透させる。

#### ◇ ケアマネジメント部門計画

1. 利用者おひとりおひとりに最後まで豊かな生活を送っていただけるよう利用者を第一に考える。
2. 利用者様の生活上の困難や不便を少しでもサポートし、自律生活の可能性を広げる

#### 行動目標

1. 多職種との連携を取ることで利用者様の個々に沿ったケアプランを作成し、利用者主体のケアを行う。
2. カンファレンスや部門間の連携を通して、精度の高いアセスメントに取り組み、専門職の視点をケアプランに活かしていく。
3. ケアマネジメントが有効に機能するようにケアの標準化に取り組み、チームケアの促進に努める。
4. ケアマネジメントのプロセスを通して可能な限り来園して頂き、利用者や家族との信頼関係構築に努める。

評価 → 介護サービス計画に基づき提供する介護サービスの一元化が図れていなかった部分もあったので、綿密な多職種連携を図りより一層の一貫性のある介護サービスの提供に努めていきたい。  
 ほぼ毎日医務室とのカンファレンスに参加し、情報収集、情報交換は行っているが、利用者の心身状態の変化やそれに伴う医療的な見地について、ご家族への報告の際に十分な情報を得られていなかったため、今後は更に情報交換を綿密且つ頻回に行うことで、正確で詳細な報告ができるように努める。

◇ 事務部門計画

1. 事務所内の個々の業務を見直し、事務業務の向上に努める。
2. 施設の顔として、明るい事務所づくりを目指し接遇向上を目指す。
3. 他部門と連携し、介護現場の支援を図る。
4. 職員の人材確保に努める。

行動目標

1. 業務分担を再検討し、業務のローテーションを行ないながら個々の業務能力向上に努める。また園内の必要書類を再検討し、書類整理や管理体制を見直す。
2. 施設の窓口として電話や受付業務、ご家族や外部施設などの来園時に親切丁寧な対応を心がけ、今期も継続して接遇向上に努める。
3. 施設の業務を理解し現場の支援を継続して行うとともに、他部署と連携して施設運営の向上を目指す。
4. 前年度に引き続き職員募集を重視し、看護職員・介護職員の確保に努める。

評価 → 業務分担はしているが、分担外の業務に対し戸惑う事があるため、次年度は分担業務範囲内だけの業務にならないよう、施設全体を把握するように努める。  
 職員募集活動では、ハローワークはもちろん、派遣社員の募集や、「職員の知り合いの知り合いキャンペーン」の期間を設けて人材確保に取り組んだ。しかし、人間関係や、体調不良、高齢などの理由から退職者も多く職員の増員にはならない結果に終わってしまったため活動は継続する。また、新型コロナウイルス感染症により外国人技能実習生も入国できず次年度に期待する。

Ⅲ. 施設内現状報告

令和3年度入退所報告

〈 入所者状況 〉 《 入所者数 : 28 名 》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	2	2	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0
女性	1	1	2	1	2	2	1	0	0	2	2	2

〈 退所者状況 〉 《 退所者数 : 28 名 》

平均稼働率:99.3%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	4	0	4	0	0	2	0	0	0	0	1	1
女性	1	2	0	3	2	2	0	1	0	2	3	0

〈 退所理由 〉

退所理由	男性(名)	女性(名)	合計
長期入院	0	2	2
他施設入所	0	1	1
自宅	1	0	1
死亡	8	16	24
合計	9	19	28

〈 令和3年度在園期間 〉

男性: 最長在園期間:2.472 日

最短在園期間:58 日

女性: 最長在園期間:5.877 日

最短在園期間:28 日

〈 年齢構成(令和4年3月31日現在) 〉

年齢	男	女	合計
60~69歳	0名	0名	0名
70~79歳	4名	6名	10名
80~89歳	11名	26名	37名
90歳以上	5名	37名	42名
100歳以上	0名	1名	1名

〈 要介護別入所者状況(令和4年3月31日現在) 〉

要介護度	従来型	ユニット型	合計
要介護1	0	0	0
要介護2	1	0	1
要介護3	10	13	23
要介護4	23	13	36
要介護5	14	16	30
平均介護度	3.98	3.66	全平均 3.82

< 平均年齢 >

従来型	ユニット型
85.2 歳	88.8 歳

< 認知症自立度(令和 4 年 3 月 31 日現在) >

日常生活自立度	従来型	ユニット型	合計
I	0 名	0 名	0 名
II a	2 名	3 名	5 名
II b	6 名	7 名	13 名
III a	16 名	11 名	27 名
III b	1 名	10 名	11 名
IV	1 名	11 名	12 名
M	0 名	0 名	0 名

< 利用者保険者別内訳(令和 4 年 3 月 31 日現在) >

保 険 者	従来型	ユニット型	合計
東広島市	19 名	22 名	41 名
竹原市	12 名	10 名	22 名
三原市	11 名	6 名	17 名
大崎上島	0 名	1 名	1 名
尾道市	1 名	0 名	1 名
世羅町	0 名	1 名	1 名
呉町・安芸高田・江田島・熊野町	各 1 名	0 名	4 名
その他	1 名	2 名	3 名

< 短期入所利用人数状況と稼働率 >

稼働率:5.9%

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人 数	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0

○新型コロナウイルス感染症対策により、短期入所の受入れはご遠慮いただき緊急時のみとしたためほとんど稼働していない状況である。

〈 年間行事報告 〉

○ 利用者が楽しみにされている保育園児との交流会などの主な行事は中止とし、餅つき大会のみ実施した。餅つき大会は、ボランティア1名が参加され会を盛り上げていただいた。

行事自粛のため食事で楽しんでいただこうと、各月にはお弁当やお楽しみランチなど工夫されたメニューの提供を行った。

月	行事	その他
4月	春祭りの会(お花見の会) 誕生日会 法話(松枝住職) =中止	清掃作業(不二ビルサービスワックス掛け=中止 端午の節句 鯉のぼり飾り 園だより発行
5月	昼食会(寿司バイキング) 誕生日会	職員健康診断(夜勤者のみ)=中止 避難訓練(昼間想定) =実施 新型コロナウイルスワクチン接種 2回目
6月	光保育園交流会=中止 誕生日会	消防用設備等定期点検=実施 貯水槽清掃消毒作業=実施 水質検査(27項目)=実施 職員腰椎検査=実施
7月	七夕祭りの会 誕生日会=	七夕の節句 笹の飾りつけ=実施 園だより発行
8月	追弔法要=中止 スイカ割 誕生日会	わくわくワーク受け入れ=中止
9月	敬老会 誕生日会	水質検査(51項目)=実施
10月	光保育園交流会 =中止 誕生日会	清掃作業(不二ビルサービスワックス掛け)=中止 ストレスチェック実施 園だより発行
11月	紅葉狩り=中止 誕生日会	利用者インフルエンザ予防接種 職員インフルエンザ予防接種=実施 防災訓練(夜間想定) 職員健診実施
12月	クリスマス会 法話(松枝住職)=中止 餅つき 誕生日会	忘年会=中止(おせち料理提供) 消防用設備等定期点検、 水質検査(27項目) 正月の準備(門松創り 12月23日) 職員腰椎検査 =実施
1月	新年を祝う会(お神酒をふるまう) 誕生日会	園だより発行
2月	節分の会 誕生日会	ひな壇飾り =実施 新形コロナ予防接種3回目接種
3月	ひな祭りの会 光保育園交流会=中止 誕生日会	水質検査(27項目) 清掃作業(不二ビルサービスワックス掛け)実施(3月10日・12日・13日) 事業報告まとめ

〈 委員会活動報告 〉

安全かつ安心される運営と介護サービス提供を目的に、それぞれの委員会で運営改善及び規定の取り決めなど検討を行う。

特別養護老人ホーム大仙園の施設と利用者の安全を守る総合的な方針を定め、以下の委員会を開催する。

委員会名	開催月/日
感染予防対策委員会	年4回実施(4・7・10・1月)
事故防止検討委員会	年4回実施(5・8・11・2月)
身体的拘束等適正化委員会	年4回実施(6・9・12・3月)
医療的ケア安全委員会	年4回実施(4・7・10・1月)
褥瘡対策委員会	年2回実施(4・10月)
運営委員会	毎月25日(1月中止)
給食会議	毎月1回(1月、2月中止)
特養入所会議	毎月25日(1月中止)
職員研修会	毎月25日(1月中止)

① 感染予防対策委員会

感染症に係る専門的な知識の習得と感染予防の啓発を図るとともに、発生時には感染拡大予防措置に取り組む。また感染予防に係る規定などを検討し職員に周知徹底する活動に努める。職員に対して感染予防に係る研修を年2回以上実施する。

評価→1月のノロウイルス感染症対応において、委員会や感染症の研修会での学びが実践出来てない部分もあり多くの感染者を出してしまった。接触感染、飛沫感染の対応策を理解していない職員がいるため個別指導を行う必要がある。あらゆる感染症に対応でき、感染経路の遮断ができるよう指導を十分に行う。感染症発生時のための物品の備蓄はあるが、ウイルスにより有効な消毒液が違うため今後は適切な消毒液の確保をしていきます。また、利用者、職員の体調管理も行い早期発見、早期対応ができるよう毎日の体温測定を行います。

〈 感染症発生状況 〉

感染症	新型コロナウイルス	インフルエンザ	ノロウイルス	疥癬(かいせん)
発患者数	0	0	18名	0

② 事故防止検討委員会

利用者の日常の支援や介護サービス提供時の介護事故を未然に防ぐため、事故報告やヒヤリハットなどの検証を行う。また事故防止に係る規定などを検討し、職員に周知する活動に努める。職員に対して事故防止に係る研修を年2回以上実施する。

評価→委員会、研修会は予定どおり実施した。今年度の事故件数は、感染事故が多くを占めており、誤薬、(薬の飲み間違い) がユニット型で4件あった。転倒による骨折は2件あり内1件は入院され手術を施行された。

転倒の危険性の高い利用者にはセンサーマットを使用するなどの対応はしているものの、駆けつけるまでのわずかなタイミングにより起こることが多く、次年度は駆けつけるまでの時間を更に短くするようセンサーマットの検討をしていき事故防止に努める。

また、介護事故だけではなく、職員の事故も3件あり、事故を起こさない対応策、注意喚起をし、事故防止に取り組むことで事故発生はない。

今後も利用者も職員も事故のない環境を整えていく。

### ③ 身体拘束適正化委員会

利用者の生活の質を高め、人間としての尊厳を守ることで身体拘束に対してその廃止及び虐待防止等について取り組む。また身体拘束等適正化に係る職員研修を年2回以上実施する。

○身体拘束実施入所者数：0名      ○虐待事案件数：0件

評価→身体拘束適正化、虐待防止の重要性について警鐘し、倫理的配慮についての意識を高めるよう委員会の中で講義をしたり、自身の振り返りをし適正化を図った。

今後も自身が気付かない言動など職員間で注意し合い不適切な支援の見直しを行う。

### ④ 医療的ケア安全委員会 (年4回実施)

施設での医療的ケアの推進と事故予防のため、安全管理に取り組む。また喀痰吸引等を実施する介護職員に対して業務の安全かつ適切に実施するため、その業務体制の整備を図る。喀痰吸引等の業務に係る研修、及び心肺蘇生訓練などの研修を年1回以上実施する。

評価→喀痰吸引特定行為実施者は現在10名であり、吸引による事故発生はない。

吸引実施者に対しては、喀痰吸引指導者が定期的に技術確認をおこなうようにしているため今後も継続する。また、救急対応に関しても講義とシミュレーションを行い迅速な対応が行えるよう取り組む。

### ⑤ 褥瘡(じょくそう)対策委員会 (年2回実施)

利用者の褥瘡(じょくそう)が発生しないように適切な介護に努め、その発生を防止する体制を整備する。また褥瘡発生に対して適切な対応かつ管理が行えるように検討を行う。

評価→適切な寝具(体圧分散マット)、ポジショニング、体位交換や皮膚の観察、栄養バランスなどの身体の総合的管理を行う事で、褥瘡(じょくそう)を発生させないよう他職種と協働し予防策の徹底を行う。

## 2. 特養運営委員会 (毎月)

事業の運営状況の確認及び検証を行うとともに、組織運営に対する事項について問題解決及び意

思決定を行うことを目的とする。事業運営に係る各規定などの検討を行いながら、改善への取り組みに努める。また職員に対して周知を図り、運営の改新に努める活動を行う。

評価→会議はほぼ開催したが、問題点、課題などの解決策を検討する上で、活発な意見交換ができず課題解決に向けた取り組みに欠けていた。職員一人一人がやりがいを持てるような現場運営を行えるよう現場運営主体の役職員が前向きに業務に従事すべきである。

### 3. 給食委員会（毎月）

特養で生活していただく利用者の食事が栄養補給だけではなく安全かつ楽しみとなるように、献立、栄養管理、食事形態、提供方法などの検討に取り組む。

評価→日清栄養士との協力により、利用者の栄養面や喜んで食べていただける献立などの工夫を行い利用者からは「美味しいね」と満足の声が聴かれた。しかし、発注の不足や連絡、伝達がスムーズに行えないことがあり、会議の場での提案事項が多く、その都度解決して行くよう協議を行った。

### 4. 特養入所会議

特養入所の申し込みをいただいた待機者について、入所に際してその緊急性及び個別の状況の把握に取り組み円滑な入所に繋げる。

評価→入所者検討会を開催することで、他施設や居宅事業所との関係性も確認できる。

相談員、介護支援専門員の施設関係者との関係性が良好であることが施設運営の大きな強みであると言える。関係性も拡大しながら待機者の増加を目指す。

### 5. 職員研修会

評価→感染症蔓延時以外は毎月研修会の開催は行っているが、参加者は数名に限られており職員の知識、技術の向上に繋がる研修会になっていない。

新型コロナウイルス感染症により外部研修への参加もなくモチベーションも高まらない状況である。

介護知識、技術の基本はもちろん応用力、利用者への配慮や優しさなども指導する必要があると考える。

#### < 内部研修状況報告 >

4月	【感染対策】 新型コロナ等予防策の手順。	10月	【事故防止】 事故防止に対する意識を高める為の取り組み
5月	【医療的ケア安全】 痰吸引の注意点	11月	【身体拘束・虐待】 虐待が起らない職場環境づくり
6月	【感染対策】 食中毒について	12月	認知症ケア
7月	【事故防止】事故防止意識を高める	1月	未実施
8月	【身体拘束・虐待】 拘束をしない介護	2月	認知症ケア
9月	介護職が目指す看取り介護	3月	「看取り介護」について



## 令和3年度 ケアハウス大仙事業報告（案）

### I. 概要

今年度も新型コロナウイルス感染症回避のため施設内行事、地域行事への参加を中止し感染症対策を行った。

感染症の罹患を防ぐことはできたが、入居者の基礎疾患が悪化され入院者も多く、病状が重症化し退居される入居者もおられ、25名（うち入院者3名）にまで減少した。

現在、入居者の年齢も90歳台が8名もおられ体調を崩される可能性も高い状況である。

そこで、数か月前より入居者の方々の安否確認を行っている。

訪室し、体調や困りごと等入居者とコミュニケーションを図りながら状態把握をし、特養職員とも連携しながら体調の変化への早期対応を心がけている。

年々高齢化も進み、注意深く入居者の生活状況の把握が必要となるが、次年度も入居者が安心して生活できるよう現在の取り組みの継続と、感染症状況により、行事や地域交流を進め楽しみを持って生活できるよう活動を広げたい。

### 目標

1. 入居者の皆様に安心して生活を送っていただくように支援を行う。
2. 入居者が適切な医療・介護サービスを受けられるよう家族、サービス事業者等関係機関と連携し迅速に対応する。
3. 感染症の発生・蔓延防止、事故の発生防止に努め、発生時には早期対応を行う。
4. 行事を通して家族・地域の方との交流を深める。

### 行動目標

- ① 入居者様の生活状況の変化により入居者様の担当の介護支援専門員、特養相談員との連携を密にし、速やかに対応する。
- ② 御家族・担当ケアマネと最低月1回で面談を行っていく。
  - ・今の生活状態を明らかにし家族・担当ケアマネの意見を聞く。
  - ・ケアハウスでの日々の生活状況を把握し、情報共有を行う。
- ③ 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ感染等の感染症が発生した場合は感染予防のため面会の受付時やご家族、サービス事業者等に連絡し迅速に対応する。
  - ・案内表示（注意喚起）を掲示する。
- ④ 事故が発生した場合は家族・サービス事業者等関係機関と連携し迅速に対応する。
  - ・特養看護師にも連絡し、状態確認をして依頼し指示を仰ぐ。
- ⑤ ケアハウス便りに行事予定日を入れて御家族様に参加を促す。
  - ・地域での行事に参加を促す。（とんど等）

・特養との連携を図り、特養行事にも参加して頂く。

## Ⅱ. ケアハウス現況報告

### 1. 入退所者数

年度	入所者数	退所者数
令和1年	5名	5名
令和2年	3名	3名
令和3年	9名	9名

### 2. 稼働状況（令和3年度）

年度	稼働率
令和1年	86%
令和2年	83%
令和3年	92%

### 3. 入院者状況(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

男	女	合計
6名	8名	14名

### 4. 入院者疾患別状況

疾患名	男	女
心疾患	2名	0名
肺炎	0名	1名
整形外科系	2名	1名
脳疾患	1名	0名
消化器疾患	1名	3名
その他	1名	2名

5. 平均年齢（各年度3月31日現在）

	1年度	2年度	3年度
男性	82.3歳	82.9歳	82.6歳
女性	85.6歳	86.1歳	86.3歳
平均	84.0歳	84.5歳	84.5歳

6. 年齢構成（各年度3月31日現在）

年齢	令和1年度			令和2年度			令和3年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
60～69歳	0	1	1	0	1	1	0	1	1
70～79歳	2	2	4	2	2	4	3	2	5
80～89歳	8	7	15	7	7	14	5	6	11
90歳以上	0	4	4	0	6	6	2	6	8
合計	10	14	24	9	16	25	10	15	25

7. 要介護度別入居者数（令和4年3月31日現在）

要介護度	男	女	合計
自立	1名	1名	2名
要支援 1	2名	5名	7名
要支援 2	2名	4名	7名
要介護 1	3名	3名	5名
要介護 2	1名	2名	3名
事業対象者	0名	1名	1名
計	9名	16名	25名

8. 通所・訪問系サービス利用状況

サービス分類	男	女	合計
デイサービス	4名	5名	9名
デイケア	3名	2名	5名
訪問リハビリ	0名	1名	1名
訪問介護	5名	4名	9名
訪問看護	1名	0名	1名

9. 入所者収入別階層区分内訳（令和4年3月31日現在）

	収入金額	入居者数
1	1,500,000 円以下	15 名
2	1,500,001 円～1,600,000 円	3 名
3	1,600,001 円～1,700,000 円	1 名
4	1,700,001 円～1,800,000 円	1 名
5	1,800,001 円～1,900,000 円	0 名
6	1,900,001 円～2,000,000 円	1 名
7	2,000,001 円～2,100,000 円	2 名
8	2,100,001 円～2,200,000 円	2 名
9	2,200,001 円～2,300,000 円	0 名
10	2,300,001 円～2,400,000 円	0 名
合計		25 名

Ⅲ. 委員会状況

1) 感染症委員会

毎日の検温、外出後や通所サービス利用後の手指消毒も徹底してもらう事で感染予防の注意喚起を行った。

他事業所の状況により、感染リスクが高まると判断した場合にはサービス利用を中止するなどの対応を行い感染防止に努めた。

新型コロナウイルスワクチン予防接種（2回目・3回目） インフルエンザ予防接種実施

2) 身体拘束適正化委員会

身体拘束の実施はなし

3) 事故防止委員会

事故件数は少なく骨折等の重大事故の発生はない。

入居者の下肢筋力の低下、平衡感覚の低下などにより転倒事故は起こりうる。

事故発生時に早期発見に繋げることや、安否確認を含め見守りの強化に取り組む。

事故・ヒヤリハット状況報告

事故種別	男	女
転倒	2 件	0 件
誤薬	1 件	0 件
合計	3 件	0 件

IV. 行事・施設行事

月	行事	施設行事
4月	お花見→中止 誕生日会	事故防止検討委員会 ケアハウス便り 発行 消防用設備点検 フロアワックス 掛け清掃
5月	寿司バイキング 誕生日会	新型コロナワクチン接種
6月	紫陽花祭りの会 誕生日会	身体拘束等適正化委員会 水質検査(27項目) 受水槽清掃
7月	七夕祭りの会 そうめん流し→中止 誕生日会	事故防止検討委員会 ケアハウス便り 発行
8月	夏祭りの会 →中止 誕生日会	感染予防対策委員会
9月	敬老会 →中止 プレゼントのみ 誕生日会	身体拘束等適正化委員会 災害避難 訓練(夜間想定) レジオネラ菌検査 (浴槽)
10月	誕生日会	事故防止検討委員会 ケアハウス 便り発行
11月	紅葉狩り→中止 誕生日会	感染予防対策委員会 職員健康診断 (11/26) インフルエンザ予防接種(入 居者/職員) 結核健康診断(入居者)
12月	クリスマス会(プレゼントのみ) 餅つき 誕生日会	身体拘束等適正化委員会 消防用設備 点検 水質検査(27項目) 正月準備
1月	初詣 とんど祭り→中止 誕生日会	事故防止委員会 ケアハウス便り発行 収入申告
2月	節分の会→中止 誕生日会	感染予防対策委員会 浄化槽法定点検 収入申告 職員研修会
3月	ひな祭りの会→中止 ひな壇飾り 誕生日会	身体拘束等適正化委員会 避難訓練 (日中想定) 年度末事業計画報告 レジオネラ菌検査(浴槽) 職員研修会



# 令和3年度 入野光保育園 事業報告書

## 1. 事業の概要

十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、健康の保持及び情緒の安定を図った。お陰で子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開できた。愛され大切にされる経験が、人への思いやり、強さ、自立心を育んでくれたと感じている。

大きな事故・問題もなく保育ができ、18名の卒園児を元気に送り出せた。

保育目標 「強く・正しく・優しく」  
～たくましさと思いやりのある子どもに～

目指す子ども像を

- ・考える子どもに
- ・思いやりのある子どもに
- ・感動する子どもに
- ・思いが表現できる子どもに
- ・根気のある子どもに

として取り組んできた。

留意してきたことは、保育士自身が子どもの思いを共感的に汲み取り、思いやりのある態度で接し、子どもの自己表現を引き出せるようにしたこと。

常に保護者と連携を取り合いながら、目的達成に努めた。

- ・連絡帳（毎日）
- ・個人懇談（4月終り～5月始め）
- ・園だより（毎月）
- ・保育参観（保護者会）（年4回）
- ・各組の保育実践の振り返り（毎月）

給食は、家庭的な味付けを大事にしながら、乳幼児期という特性を踏まえ、その子どもたちの一生の食生活を形成するという役割を重視して、様々な工夫を凝らした。おやつも手作りを中心とした。

特別な保育事業を実施した。

- ・地域子育て支援拠点事業（月・火・木の週3日実施）
- ・障害児保育事業 4月～1名 11月～2名
- ・緊急一時預かり事業（希望に応じて）・・・今年度は無

## 2. 園児の状況 定員 80名

	年度初め	途中入園	途中退園	年度末
0歳児	7	1		8
1・2歳児	17	1	1	17
3歳児	13	1		14
4・5歳児	33	2	1	34
計	70	5	2	73

### 3.職員の状況

園長	1名	パート保育士	5名
主任保育士	1名	事務員	1名
保育士	7名	(嘱託医)	(2名)
調理員・等	3名	子育て支援士	2名

### 4.主要年間実施行事

- 4月 入園式 健康診断 歯科健診 (保護者会) (個人懇談)
- 5月 (親子遠足) 尿検査
- 6月 衣替え 冷水摩擦始め プール開き (大仙園慰問)
- 7月 七夕会 地震退避訓練 シャボン玉会 (保護者会) 年長児お泊まり会  
火災通報訓練 不審者対応訓練 消火器等総合点検・消火器使用訓練
- 8月 夕涼み盆踊り大会
- 9月 プール納め お月見会 (敬老会・大仙園慰問)
- 10月 衣替え 健康診断 園外保育 歯科健診 運動会 餅つき大会
- 11月 縄跳び大会 (老人会との交流) 尿検査 (レストランごっこ)
- 12月 (ふれあい参観(第2土曜)) お店屋さんごっこ(製作展)
- 1月 (発表会衣装相談)・マラソン大会
- 2月 節分豆まき 消火器等点検 地震退避訓練 火災通報訓練  
不審者対応訓練 発表会予行練習
- 3月 (年長児お茶ごっこの集い) 大仙園慰問 発表会(第1土曜)  
長児お別れ遠足 園児お別れ会 卒園式
- ※ ( ) の行事は、コロナの感染拡大を防ぐために中止とした。

毎月・・・交通安全訓練 火災退避訓練 身体測定 お誕生会

#### <講師を招いて>

英会話教室(月4回)年長・年中児

講師:フィリップ・マイケル・マリアス (フォスター外語学院講師)

お茶ごっこ(月2回)年長児

講師:盛本美幸・平野喜久恵・道正水脈

囲碁ゲーム(年6回)年長児

講師:堀江誠及

リズム運動遊び(年4回)

講師:松本雅子・木原涼次



## 5.職員研修の状況

園内職員会議 毎月1回

園内人権保育学習 年5回

東広島市民間保育施設長会 年6回

こども未来部 保育課との連携を図り、保育運営等の充実に努めた。

市保育連盟との連携を図り、保育の質の向上に努めた。

市・保育連盟 総会・講演会 5月

全体研修会 年5回

県・保育連盟	保育事業研修大会	(2日間)	} オンライン
	所長研修	(2日間)	
	夏季保育研修	(2日間)	

市保育課・サポート事業研修 (オンライン)

幼保・小接続研修

園長等運営管理協議会 (オンライン)

保育施設長等リーダー研修 (オンライン)

県・「遊び・学び・育つひろしまっ子」

園・所における保護者支援のための研修会 (オンライン)

県・エッセンシャル研修 (オンライン含む)

キャリア別保育セミナー (オンライン)

地域子育て支援センター長研修 (オンライン)

子育て支援者会議 (オンライン)

キャリアアップ研修：3人・・・3種別 (オンライン含む)

## 6.コロナ禍での園運営

・昨年同様、行事は控えたり、密集を避けたりしながら、時短にするなど工夫して実施できるものは実施した。

特に年長児は、できるだけ思い出に残るよう考慮して取り組んだ。

・2月2日(水)

初めて0歳児にコロナの陽性者が出た。(母親が先にかかり園児に感染したらしい)

市よりの指導を受け、保護者にJモバイル(メール)にて連絡。

「本日2月2日(水)に当園の児童1名が新型コロナウイルス感染症に感染したことが確認されました。施設内の消毒を実施するため、明日2月3日(木)は、臨時休園とさせていただきます。また、園内での感染者との接触者の特定について、保健所と連携して進めることとします。

4日以降の対応などについては、詳細が分かり次第、改めて連絡させていただきます。」と。

(未読の保護者には、電話でもお伝えした。)

・2月3日(木)

園の消毒は、アルソックに依頼し、施設の消毒をする。(かかった費用 275,000円)

おもちゃなどは、保育士が1日かかりで丁寧な消毒を実施(アルコール・次亜塩素酸にて)

夕方Jモバイル（メール）にて、0歳児クラスの保護者へ、濃厚接触者の可能性があるため、保健所と連絡がつくまで自宅待機（クラス閉鎖）のお願いをした。

又、保育士・調理師など14名抗原検査を受け、全員陰性。

・2月4日（金）

保健所に園から連絡をする。感染の状況報告と担任保育士が質問に答え、感染対策状況を伝えたことの結果「濃厚接触者がいるとは考えにくい」との回答をもらった。

・2月5日（土）より通常保育にもどった。しかし、2月10日までは0歳児と担当保育士のセルフチェックをするようにし、今後も園全体で感染対策を続けた。

・3月16日（火）

夕方、2歳児園児の母の陽性の報告あり。本日園児は欠席。

昨日までに園児の使用した保育室・おもちゃなどを保育士が消毒。（アルコール・次亜塩素酸にて）

園児は、3月25日まで欠席。

・3月19日（土）

園児の陰性の報告あり。

その後、家族が濃厚接触者になったとか、熱で欠席という状況はあったが、コロナに感染したという報告は届いていない。

そのまま、年度末を迎えられた。